

第55回 県政に関する世論調査の結果について

千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2469

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は平成29年度2回目の調査で県内在住の満18歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、電話de詐欺に関する県民の意識、消費生活、人生の最終段階における医療や療養への希望、高齢者が地域で暮らし続けるための施策、障害者施策、男女共同参画社会の実現、食育、環境保全に関する取組について調査を行いました。

1 調査の設計

(1) 調査対象 千葉県在住の満18歳以上の男女個人

(2) 標本数 3,000人

(3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(4) 調査方法 郵送法(郵送配付 - 郵送回収)

(5) 調査時期 平成29年12月22日～平成30年1月17日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,394(46.5%)

3 調査の項目

県政の主要課題

電話de詐欺に関する県民の意識について

消費生活について

人生の最終段階における医療や療養への希望について

高齢者が地域で暮らし続けるための施策について

障害者施策について

男女共同参画社会の実現について

食育について

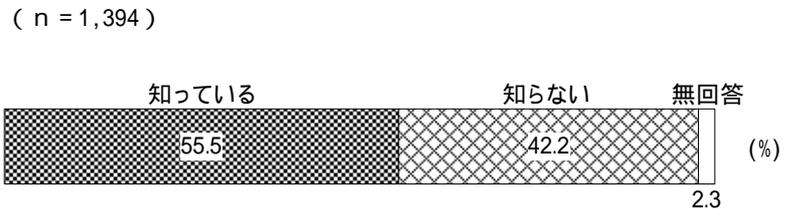
環境保全に関する取組について

4 調査の結果

1 電話 d e 詐欺に関する県民の意識について

(1) 名称の認知度

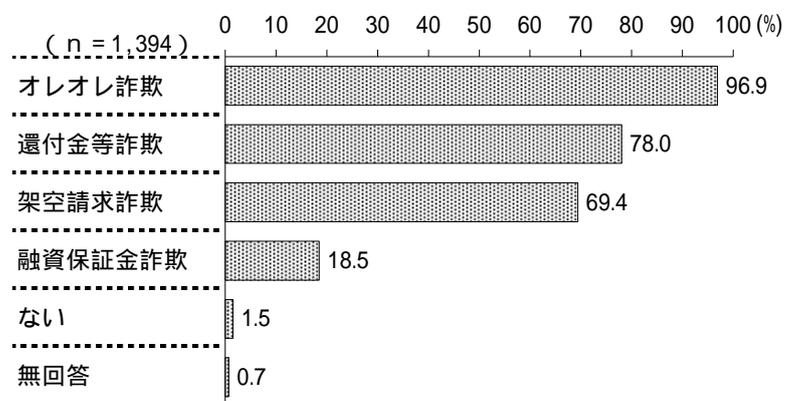
「電話 d e 詐欺」の名称を知っているか聞いたところ、「知っている」(55.5%)が5割台半ばとなっている。一方、「知らない」(42.2%)は4割を超えている。



(2) 電話 d e 詐欺の手口に対する知識

(複数回答：いくつでも)

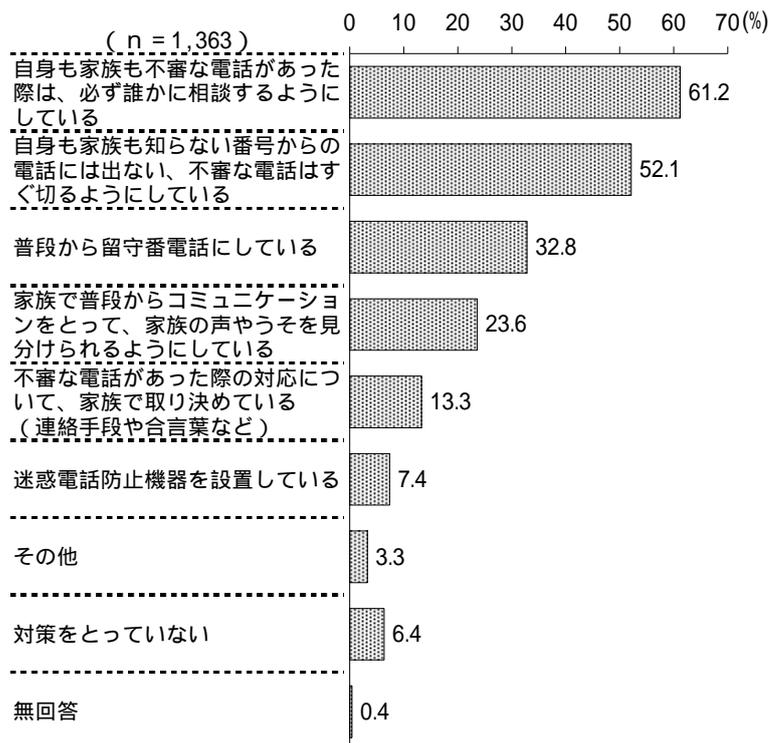
電話 d e 詐欺のうち、知っている手口を聞いたところ、「オレオレ詐欺」(96.9%)が9割台半ばで最も高く、以下、「還付金等詐欺」(78.0%)、「架空請求詐欺」(69.4%)、「融資保証金詐欺」(18.5%)が続く。



(3) 電話 d e 詐欺への対策

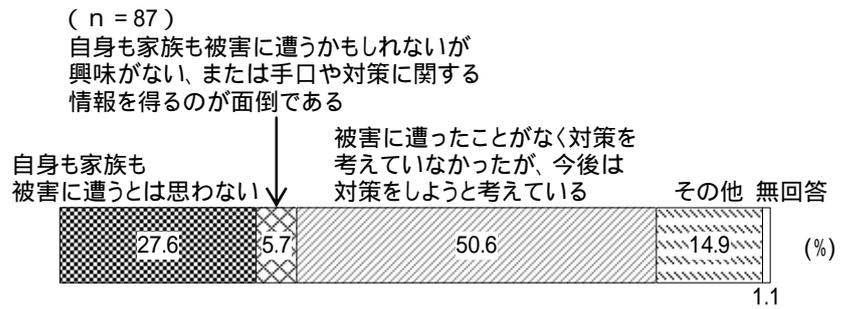
(複数回答：いくつでも)

電話 d e 詐欺の手口を知っていると答えた1,363人を対象に、知っている手口に遭った場合に、あなたがとっている、またはとろうと考えている対策を聞いたところ、「自身も家族も不審な電話があった際は、必ず誰かに相談するようにしている」(61.2%)が6割を超えて最も高く、以下、「自身も家族も知らない番号からの電話には出ない、不審な電話はすぐ切るようにしている」(52.1%)、「普段から留守番電話にしている」(32.8%)、「家族で普段からコミュニケーションをとって、家族の声やうそを見分けられるようにしている」(23.6%)が続く。



(4) 電話 d e 詐欺への対策を取っていない理由

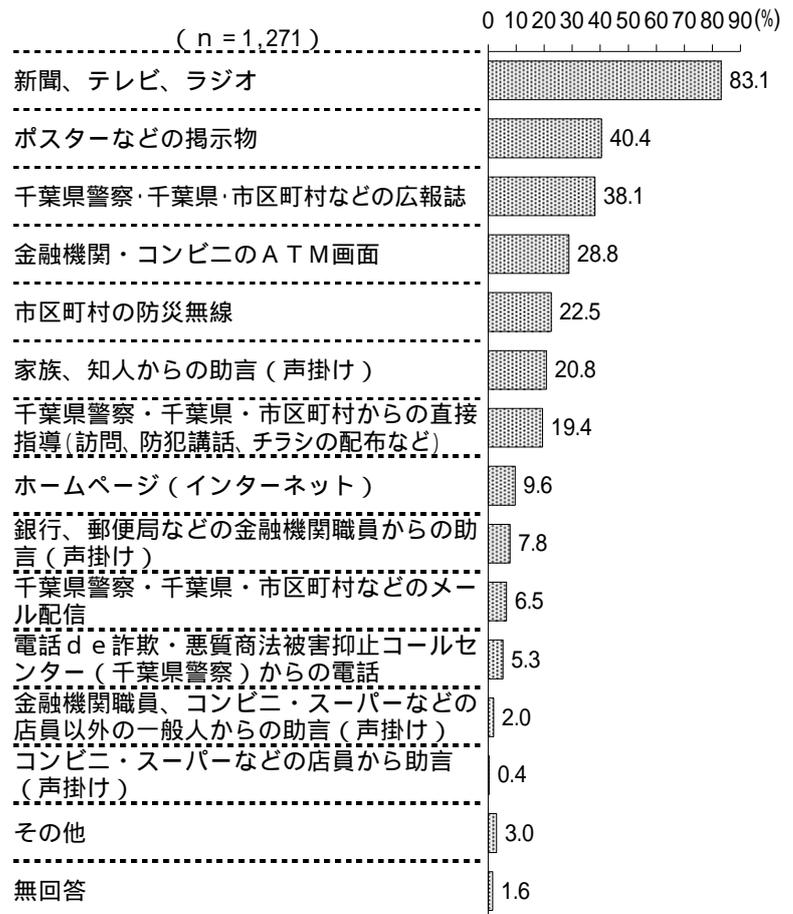
電話 d e 詐欺への「対策をとっていない」と答えた87人を対象に、対策をとっていない理由を聞いたところ、「被害に遭ったことがなく対策を考えていなかったが、今後は対策をしようと考えている」(50.6%)が5割で最も高く、以下、「自身も家族も被害に遭うとは思わない」(27.6%)、「自身も家族も被害に遭うかもしれないが興味がない、または手口や対策に関する情報を得るのが面倒である」(5.7%)が続く。



(5) 電話 d e 詐欺の手口を知った媒体

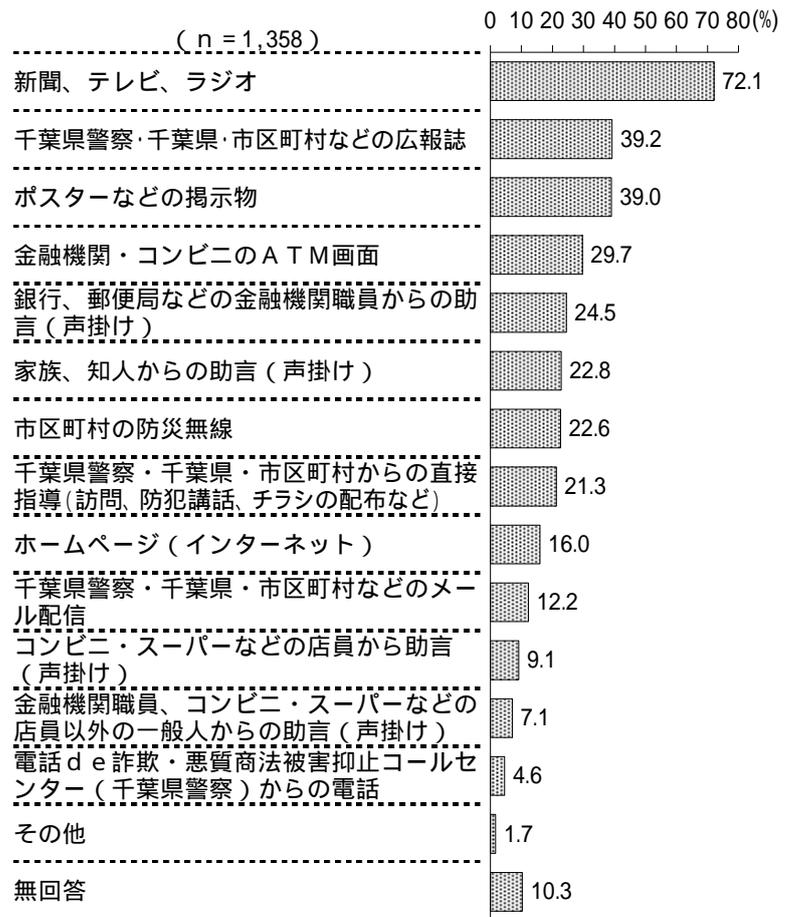
(複数回答：いくつでも)

電話 d e 詐欺への対策をとっていると答えた1,271人を対象に、どのような媒体で電話 d e 詐欺の手口を知ったか聞いたところ、「新聞、テレビ、ラジオ」(83.1%)が8割を超えて最も高く、以下、「ポスターなどの掲示物」(40.4%)、「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」(38.1%)、「金融機関・コンビニの A T M 画面」(28.8%)、「市区町村の防災無線」(22.5%)が続く。



(6) 電話d e 詐欺の手口や対策に関する情報を提供してほしい媒体(複数回答:いくつでも)

(2)で電話d e 詐欺の手口を知っている、あるいは(3)で電話d e 詐欺への対策について回答した1,358人を対象に、電話d e 詐欺の手口や対策に関する情報を、今後どのような媒体で得たいと思うか聞いたところ、「新聞、テレビ、ラジオ」(72.1%)が7割を超えて最も高く、以下、「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」(39.2%)、「ポスターなどの掲示物」(39.0%)、「金融機関・コンビニのA T M画面」(29.7%)が続く。



《「電話 d e 詐欺に関する県民の意識」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、239人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

詐欺は人の弱みにつけこんだ卑怯な犯罪です。受け取り人を装って摘発するのも良い手段だと思います。（男性、20代、海匝地域）

みやぞんさんのCMの合言葉は良いアイデアだと思います。ただ人を疑わないお年寄りや知的障害の方を守る方法があると良いと思います。社会的弱者の方々はいろいろ損ばかりしている気がする。（女性、50代、東葛飾地域）

これだけ電話 d e 詐欺について注意喚起しているにもかかわらず被害が減らないのはなぜなのか。手口も巧妙になってきているからなのか。（女性、40代、千葉地域）

電話を受けた人がだまされたふりをして詐欺師をつかまえたい時のノウハウを教えてください。手順をまちがうと危険なので。（女性、60～64歳、君津地域）

いろいろな場面での啓発活動はありますが、ややマンネリ化しているような気がします。また、自分だけは被害に合わないという気持ちがある人が多いせいか、個人の危機管理に問題がある気がします。（女性、60～64歳、印旛地域）

NHK首都圏ネットワークで振り込め詐欺について放送していますが、千葉テレビや民報各社も同時刻ぐらいに放送する様にしたらどうでしょうか。（男性、65歳以上、印旛地域）

詐欺の手口は日々変わります。最新の手口の公表や迷惑電話防止装置の配布に力を入れて欲しいです。今後は、東京オリンピックや元号改変による、手続きの詐欺が増加すると予想します。（男性、30代、千葉地域）

敬老会での警察の方の寸劇はとてもよかったです。色々な事がよくわかりました。（女性、65歳以上、印旛地域）

今までも広く広報誌等で呼びかけている。しかしその場面になると、人はどうして詐欺に応じてしまうのか。人の善意につけこんでいるのが許せません。その時の心理状況、事例等具体的にあげて、講演等で話してほしい。（女性、65歳以上、山武地域）

世間的には“オレオレ詐欺”が最も認知度の高い名称なので、その名称を変更するのを感じない。“オレオレ”以外の詐欺も包括した名称としたい考えも理解できるが、既に電話で行われる詐欺全般が“オレオレ詐欺”と認知されているのではないかと。（男性、30代、印旛地域）

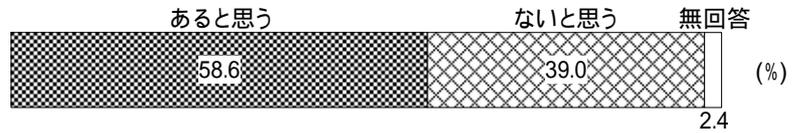
2 消費生活について

(1) 消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無

消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思うか聞いたところ、「あると思う」(58.6%)が約6割で高くなっている。

一方、「ないと思う」(39.0%)は約4割となっている。

(n = 1,394)

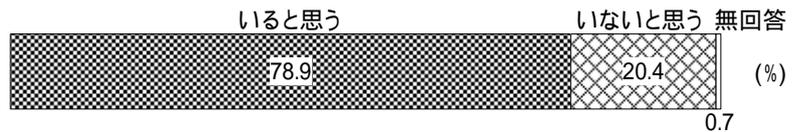


(2) 消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無

消費者トラブルにあった時に、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいると思うか聞いたところ、「いると思う」(78.9%)が約8割で高くなっている。

一方、「いないと思う」(20.4%)は2割となっている。

(n = 1,394)

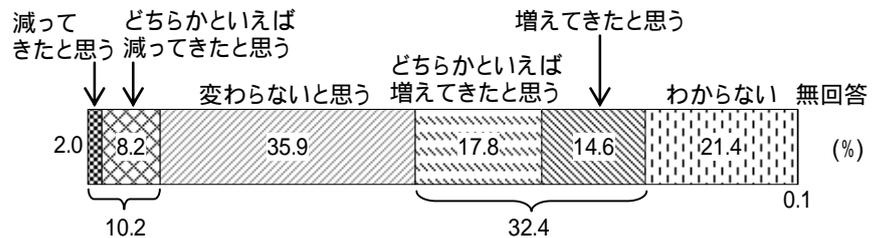


(3) 「悪質商法」に対する考え

点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思うか聞いたところ、「減ってきたと思う」(2.0%)と「どちらかといえば減ってきたと思う」(8.2%)を合わせた『減ってきた(計)』(10.2%)が1割となっている。

一方、「どちらかといえば増えてきたと思う」(17.8%)と「増えてきたと思う」(14.6%)を合わせた『増えてきた(計)』(32.4%)は3割を超えている。

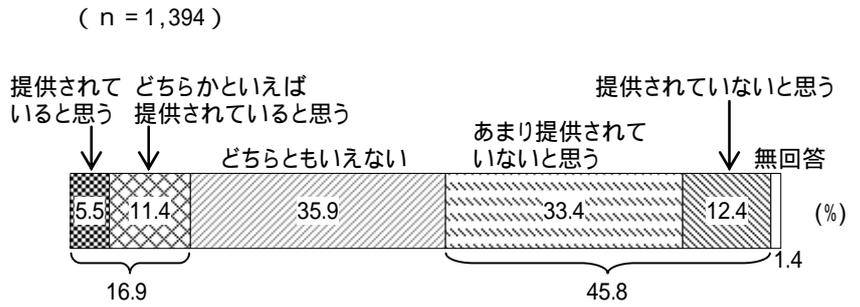
(n = 1,394)



(4) 消費者教育の機会に対する考え

消費者教育の機会が提供されていると思うか聞いたところ、「提供されていると思う」(5.5%)と「どちらかといえば提供されていると思う」(11.4%)を合わせた『提供されている(計)』(16.9%)が1割台半ばとなっている。

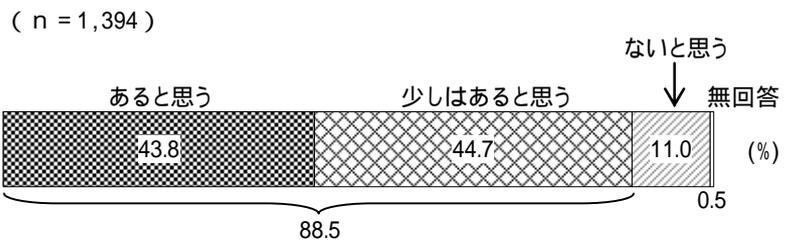
一方、「あまり提供されていないと思う」(33.4%)と「提供されていないと思う」(12.4%)を合わせた『提供されていない(計)』(45.8%)は4割台半ばとなっている。



(5) 買い物を行う際の「環境や人にやさしい商品の選択を意識した行動」の有無

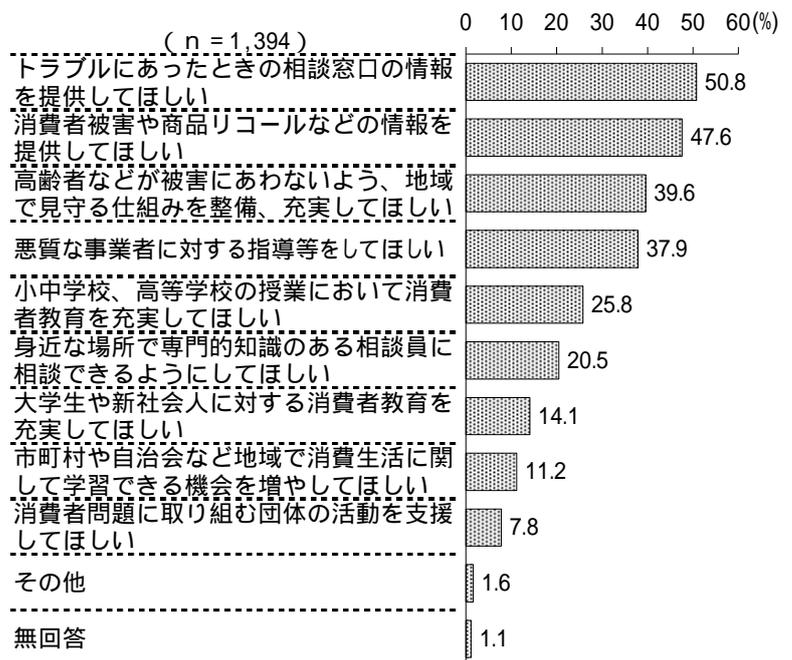
買い物を行う際に、環境や人にやさしい商品の選択を意識して行動したことがあるか聞いたところ、「あると思う」(43.8%)が4割台半ばとなっており、これと「少しはあると思う」(44.7%)を合わせた『あると思う(計)』(88.5%)が約9割で高くなっている。

一方、「ないと思う」(11.0%)は1割を超えている。



(6) 消費者トラブルなどにあわないために県や市町村へ求めること (複数回答: 3つまで)

消費者トラブルや被害にあわないようにするために、県や市町村に望むことを3つまで選んでもらったところ、「トラブルにあったときの相談窓口の情報を提供してほしい」(50.8%)が5割で最も高く、以下、「消費者被害や商品リコールなどの情報を提供してほしい」(47.6%)、「高齢者などが被害にあわないよう、地域で見守る仕組みを整備、充実してほしい」(39.6%)、「悪質な事業者に対する指導等をしてほしい」(37.9%)が続く。



《「消費生活」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、165人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

リコール等ネットであえて調べないと分からない時もあるので、ネットのない人等はどうすれば良いのだろう。子供達にはトラブルや被害にあわない様な教育が必要だと思う。また、あってしまっても対処できる方法はあるのだと教えて欲しい。色々な場面で専門的知識のある人にいつでも相談できるシステムがあれば、知らないでトラブルを回避出来なかったという事が無くなるのではないのでしょうか。
(女性、50代、東葛飾地域)

相談窓口があることは知っているが、どのような対応をしてもらえるか、どんな解決方法があるかが明確でないので、利用することに不安もある。もっと具体的に周知してもらえると利用しやすくなると思う。
(女性、20代、葛南地域)

エコ商品や障がい者支援につながるようなものを扱っている場所が少ないように思います。コンビニや道の駅、ネットショップなどもあればいいと思います。特別な場所、限られた場所ではなく、多くの人の目に触れるところを希望します。
(女性、30代、千葉地域)

都会の若い世代に対してのしつこい客引きや勧誘が多いです。パトロール等で直接注意したり、会社へ指導・注意等の対策を強化してほしい。
(女性、30代、葛南地域)

市の消費生活相談員の方は、本当に親身になって相談に乗って下さるので、相談員を増やして頂きたい。相談員の数が少ないと思う。
(男性、50代、印旛地域)

住民から民生委員、さらにしかるべき所、の仕組みがあるので、これを太くしていくことが早道だと思う。
(男性、65歳以上、千葉地域)

もう50歳なので、このような被害にはあわないと思うが、20歳の頃、ちょうど親元を離れ寮に入っている時に、「 に当選しました」という電話に引っかかる寸前で思いとどまったことや、周囲にだまされた人がたくさんいたことを思い出した。世間知らずだったと思いますが、一番危ない年頃に教育をしてほしい。
(女性、50代、葛南地域)

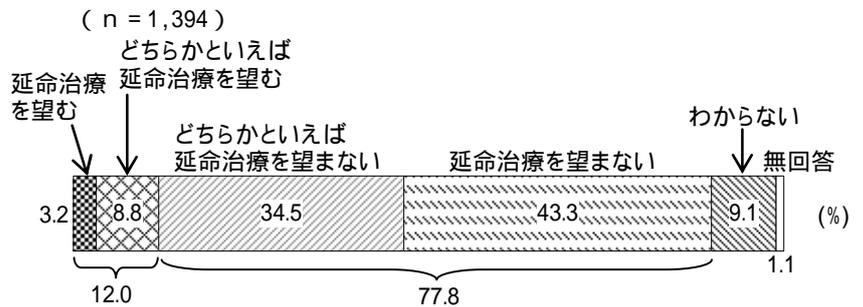
今までトラブルになったことがないので、これからも気をつけていきたい。何かあるとママ友のグループラインに話をのせて、「これはだまされてるかもしれないから、気をつけて!!」などのアドバイスをもらうことも多い。ネットで少ししらべればヒットするよう、情報をマメにネットにUPしてほしい。
(女性、40代、印旛地域)

3 人生の最終段階における医療や療養への希望について

(1) 延命治療の希望

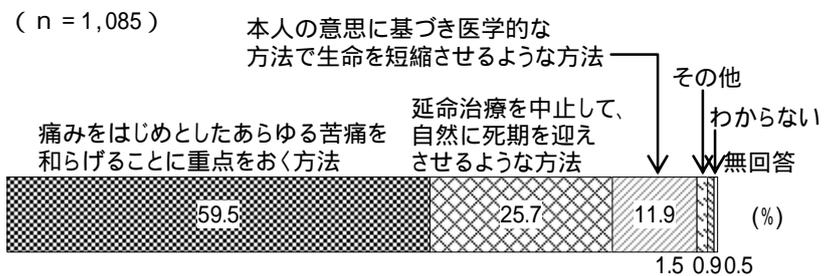
適切な医療の継続にもかかわらず治る見込みがなく死期が迫っている状況の場合、「延命治療」を望むか聞いたところ、「延命治療を望む」(3.2%)と「どちらかといえば延命治療を望む」(8.8%)を合わせた『延命治療を望む(計)』(12.0%)が1割を超えている。

一方、「どちらかといえば延命治療を望まない」(34.5%)と「延命治療を望まない」(43.3%)を合わせた『延命治療を望まない(計)』(77.8%)は約8割で高くなっている。



(2) 延命治療を望まない場合の医療・ケア方法の希望

延命治療を望まないと答えた1,085人を対象に、その場合に具体的にはどのような医療・ケア方法を望むか聞いたところ、「痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法」(59.5%)が約6割で最も高く、以下、「延命治療を中止して、自然に死期を迎えさせるような方法」(25.7%)、「本人の意思に基づき医学的な方法で生命を短縮させるような方法」(11.9%)が続く。



《「人生の最終段階における医療や療養への希望」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、285人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

ドナー登録カードのような携帯できるカードで、延命治療に対する意思表示ができるようにしてほしい。
(男性、20代、葛南地域)

本人の意思が“延命治療を望まない”としても、家族の判断は迷い、悩み、苦しむことは想像できます。普段の家族のコミュニケーションを深く密にしておくことが重要だと思います。
(女性、60～64歳、長生地域)

ホスピスや在宅看護・訪問診療などの終末期医療について充実したシステムを整備するとともに、積極的に広報し、患者や家族に告知してほしい。
(男性、50代、印旛地域)

画一的でなく、個別的なケアが受けられるような人手の充実した施設で過ごせると助かる。老健などで必要な職員の数の基準を上げなければ、介護職の給料だけ上げて職員は増えないように思う。
(女性、50代、長生地域)

医療機関から本人と家族に対する、つつみ隠さない状況説明、考えられる治療方針の提示と、本人・家族が治療方針を選択できるようにすることが大切だと思います。妻が千葉県がんセンターでお世話になっていますが、そのような環境が整っていると実感しています。
(男性、60～64歳、千葉地域)

法的整備を行った上で、終末期が来たとき、医者任せではなく患者本人の意思を尊重し自ら死を選択できるような終末期医療を検討すべきと考えます。
(男性、60～64歳、印旛地域)

死期の迎え方をひとりひとりの人が考える教育の場が必要だと考えます。また、死期を迎えた人やその家族にわかりやすく説明できる医療関係者の育成も重要と考えます。死期をサポートする人材の育成が進むことを願います。
(女性、50代、東葛飾地域)

緩和ケア、在宅ケアの受けられる施設や支援に力を入れて、地域での受け入れ体勢を整えてほしい。
(女性、30代、長生地域)

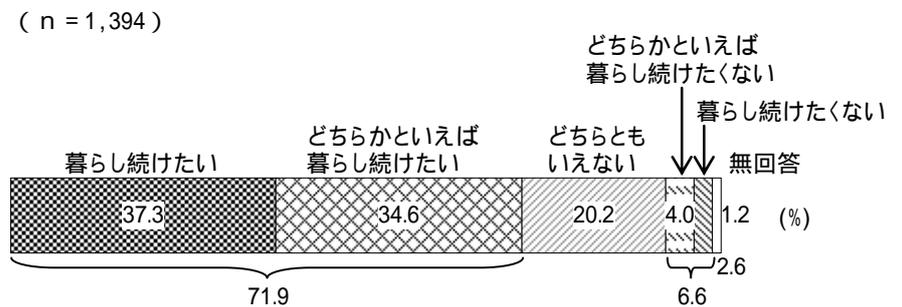
日頃より家族でコミュニケーションをとり、考え方、認識の統一をしておきたい。行政が音頭をとるのは難しいかもしれないが世の流れを見ながら、啓発をお願いしたい。
(男性、40代、葛南地域)

4 高齢者が地域で暮らし続けるための施策について

(1) 介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいか

介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思うか聞いたところ、「暮らし続けたい」(37.3%)と「どちらかといえば暮らし続けたい」(34.6%)を合わせた『暮らし続けたい(計)』(71.9%)が7割を超えて高くなっている。

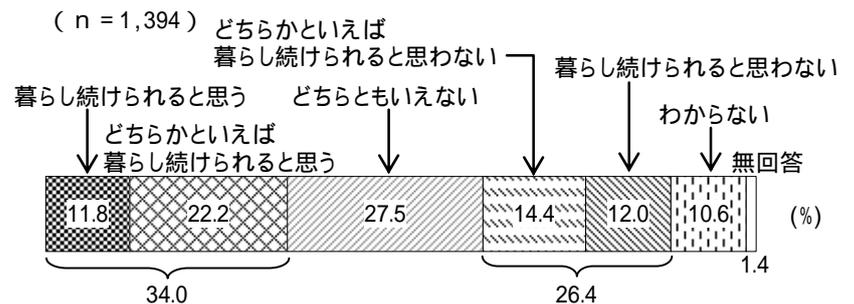
一方、「どちらかといえば暮らし続けたくない」(4.0%)と「暮らし続けたくない」(2.6%)を合わせた『暮らし続けたくない(計)』(6.6%)は1割未満となっている。



(2) 介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか

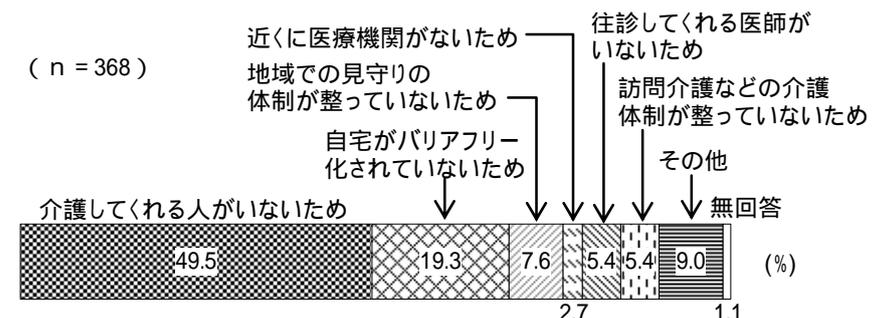
介護が必要になっても現在の自宅や地域で暮らし続けられると思うか聞いたところ、「暮らし続けられると思う」(11.8%)と「どちらかといえば暮らし続けられると思う」(22.2%)を合わせた『暮らし続けられると思う(計)』(34.0%)が3割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえば暮らし続けられると思わない」(14.4%)と「暮らし続けられると思わない」(12.0%)を合わせた『暮らし続けられると思わない(計)』(26.4%)は2割台半ばとなっている。



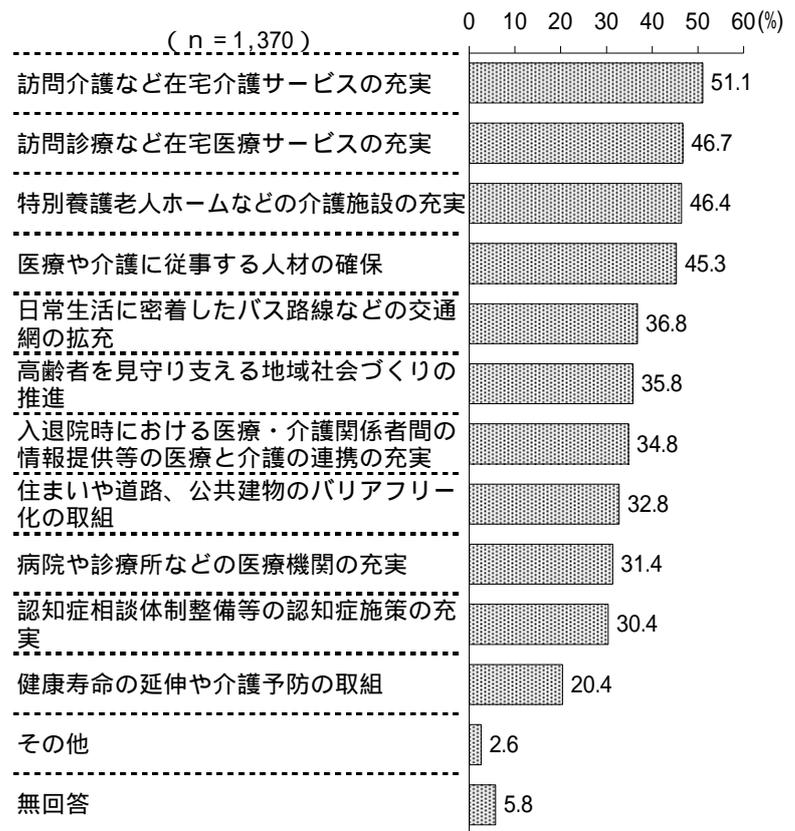
(3) 現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わない理由

介護が必要になっても現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わないと答えた368人を対象に、その理由を聞いたところ、「介護してくれる人がいないため」(49.5%)が約5割で最も高く、以下、「自宅がバリアフリー化されていないため」(19.3%)、「地域での見守りの体制が整っていないため」(7.6%)が続く。



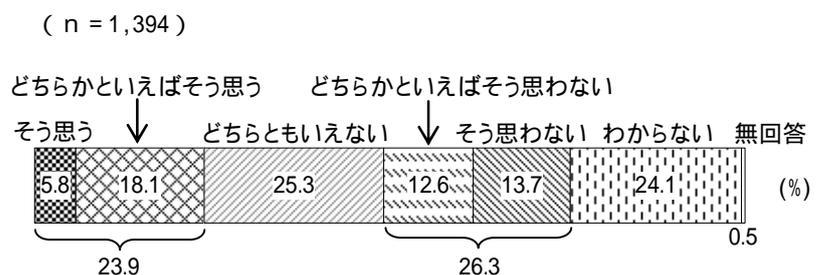
(4) 地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めること
(複数回答：いくつでも)

(2)で介護が必要になっても現在の自宅や地域で暮らし続けられると思うと答えた人、「どちらともいえない」あるいは「わからない」と答えた人、および(3)で暮らし続けられると思わない理由を回答した1,370人を対象に、地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めることを聞いたところ、「訪問介護など在宅介護サービスの充実」(51.1%)が5割を超えて最も高く、以下、「訪問診療など在宅医療サービスの充実」(46.7%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設の充実」(46.4%)、「医療や介護に従事する人材の確保」(45.3%)、「日常生活に密着したバス路線などの交通網の拡充」(36.8%)、「高齢者を見守り支える地域社会づくりの推進」(35.8%)、「入退院時における医療・介護関係者間の情報提供等の医療と介護の連携の充実」(34.8%)、「住まいや道路、公共建物のバリアフリー化の取組」(32.8%)、「病院や診療所などの医療機関の充実」(31.4%)、「認知症相談体制整備等の認知症施策の充実」(30.4%)、「健康寿命の延伸や介護予防の取組」(20.4%)が続く。



(5) 高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うか

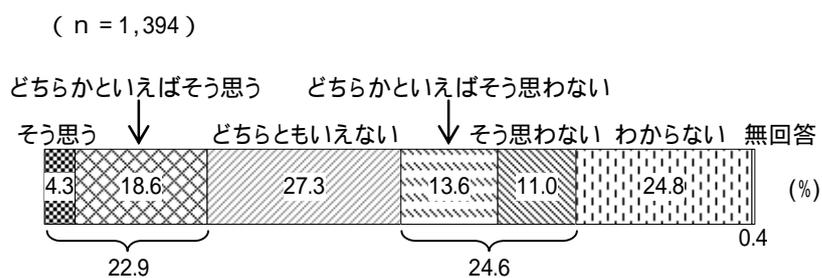
高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.8%)と「どちらかといえばそう思う」(18.1%)を合わせた『そう思う(計)』(23.9%)が2割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.6%)と「そう思わない」(13.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(26.3%)は2割台半ばとなっている。



(6) 高齢者が社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか

高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.3%)と「どちらかといえばそう思う」(18.6%)を合わせた『そう思う(計)』(22.9%)が2割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(13.6%)と「そう思わない」(11.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(24.6%)は2割台半ばとなっている。



《「高齢者が地域で暮らし続けるための施策」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、238人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

ある程度健康に自信があって、それなりの意欲がある高齢者は結構いるので、それらの人々に地域活動やボランティアに参加したら、ポイントを与えて、いずれ自分が自立できなくなった時にそのポイントを使える様にしたら良いと思う。（女性、65歳以上、千葉地域）

ユニバーサルデザインの環境を増やして欲しい。（男性、20代、千葉地域）

最も必要なことは、健康を維持できるということではないでしょうか。高齢者が介護状態にならないよう、運動や食事などについての予防のためのサービスがなされるとよいと思います。（女性、60～64歳、千葉地域）

昨年から、民生委員の方が発起人となり、近くでふれあい体操教室が始まりました。近いので車に乗れない高齢者も参加でき、市の保健師さんや栄養士さんが来てくれて組体操をしたり、食育の話をしたりお茶会をしたりと、今まであいさつ程度しかしなかった人ともお話ができるようになりました。（女性、65歳以上、安房地域）

公共交通機関が少ない地方の高齢者はどうしても車を運転するしかない。デマンドタクシーなどもあるが、ニーズに応えきれていないと感じる。難しい問題だと思うが、県の取り組みに期待する。（女性、40代、君津地域）

介護等への人材確保はむずかしい。また、若い人が少ないため育てることができない。高齢者との関わりは大変。（男性、65歳以上、安房地域）

ケアマネジャー、相談員や介護職の賃金の向上を求めます。きつい、きたない仕事。賃金があがらなければみんな続けられません。（女性、50代、印旛地域）

地域の卓球の同好会で週2回運動をしているが、他の同好会も盛んです。健康維持への積極的取組みが結果的に医療費等の節減になると考える。（男性、65歳以上、印旛地域）

千葉県生涯大学校で学ばせていただいた1人です。楽しい生きがいを感じ、多数の友人も得ました。多くの県民が学ばれ経験される事を望みます。（女性、65歳以上、東葛飾地域）

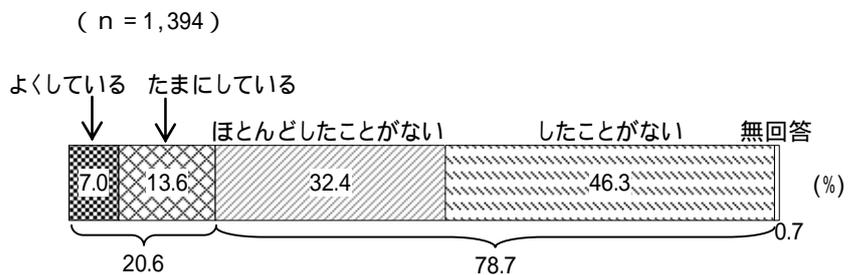
元気で前向きな性格の方々は、地域でのさまざまな活動に参加していると思います。そうでない方々も参加してみようかと思えるような活動と声かけに力を入れてみたらと思います。（女性、65歳以上、印旛地域）

5 障害者施策について

(1) 障害のある人に対する支援経験

障害のある人に対する支援()をしたことがあるか聞いたところ、「よくしている」(7.0%)と「たまにしている」(13.6%)を合わせた『している(計)』(20.6%)が2割となっている。

一方、「ほとんどしたことがない」(32.4%)と「したことがない」(46.3%)を合わせた『したことがない(計)』(78.7%)は約8割となっている。

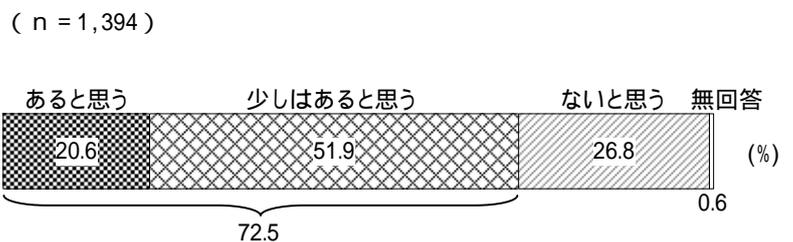


()ここでいう「支援」とは、例えば車いす利用者の移動の介助や聴覚障害のある人への筆談対応など、障害のある人の生活や活動への直接的な支援を意味します。

(2) 障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見の有無

障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思うか聞いたところ、「あると思う」(20.6%)が2割となっており、これと「少しはあると思う」(51.9%)を合わせた『あると思う(計)』(72.5%)が7割を超えて高くなっている。

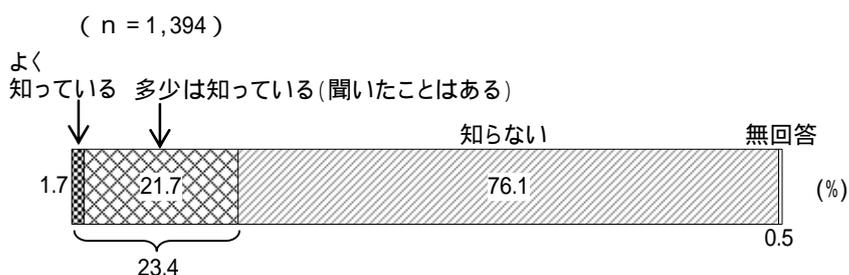
一方、「ないと思う」(26.8%)は2割台半ばとなっている。



(3) 「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(1.7%)と「多少は知っている(聞いたことはある)」(21.7%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(23.4%)が2割を超えている。

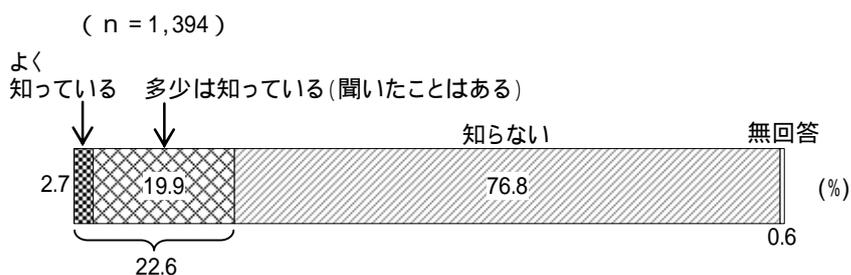
一方、「知らない」(76.1%)は7割台半ばとなっている。



(4) 「障害者差別解消法」認知状況

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(2.7%)と「多少は知っている(聞いたことはある)」(19.9%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(22.6%)が2割を超えている。

一方、「知らない」(76.8%)は7割台半ばとなっている。



《「障害者施策」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、164人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

障害に対する知識を一般的に広めることで差別は少なくなるのではないかと思います。

（女性、30代、印旛地域）

障害者の就労の枠を広げることが急務。

（男性、65歳以上、葛南地域）

身体障害を持った方に対する支援や施設の整備などは充実してきたように思えるが、発達障害等を持った方に対しての支援ももっと充実すべきだと思う。

（女性、20代、葛南地域）

施設で働いていますが、現場の人員確保、従事する人の能力の格差等、難しい事が多いです。待遇面でも、もう少し見合った給料を考えてほしい。

（女性、65歳以上、山武地域）

意外に住民が障害者と接する機会が少ない。イベント等を通じて機会を増やすべきである。パラリンピックもあるので、この機会に障害者への支援を更に考えるべきと考えます。

（男性、40代、夷隅地域）

何ができて何ができないのか、それぞれ症状は異なると思うが、具体的にどのような支援を必要とされているのかがわかりにくい。実例を紹介してほしい。

（女性、30代、葛南地域）

近所に、両親が亡くなってひとりで生活している、障害がある様子の方がいます。このようになった場合の生活方法がわからない。

（男性、65歳以上、海匝地域）

学校に車いすの子がいますが、トイレや階段などでとても苦労しています。校内のバリアフリー化をもっと進めて欲しいです。

（女性、40代、印旛地域）

かつて仕事で障害のある人に直接的な支援をしたことがありますが、それ以外ではほとんどしたことがありません。県の条例や平成28年4月に施行された法律も知りませんでした。これら条例や法律の普及啓発のための施策がますます重要だと思います。

（男性、65歳以上、長生地域）

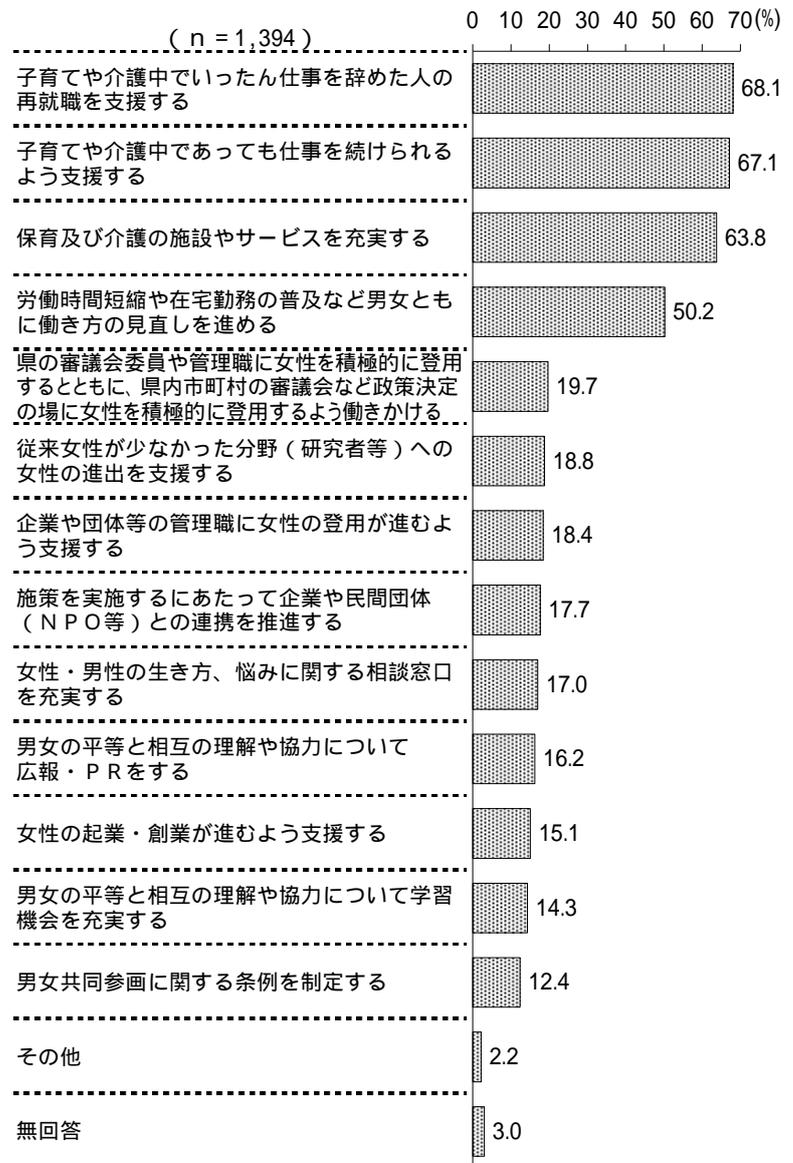
障害者に対する差別意識はないが、対応の仕方がわからず支援できない場合があるのではと思う。

（男性、65歳以上、印旛地域）

6 男女共同参画社会の実現について

(1) 男女共同参画社会の実現のために今後県が力を入れるべき取組(複数回答:いくつかでも)

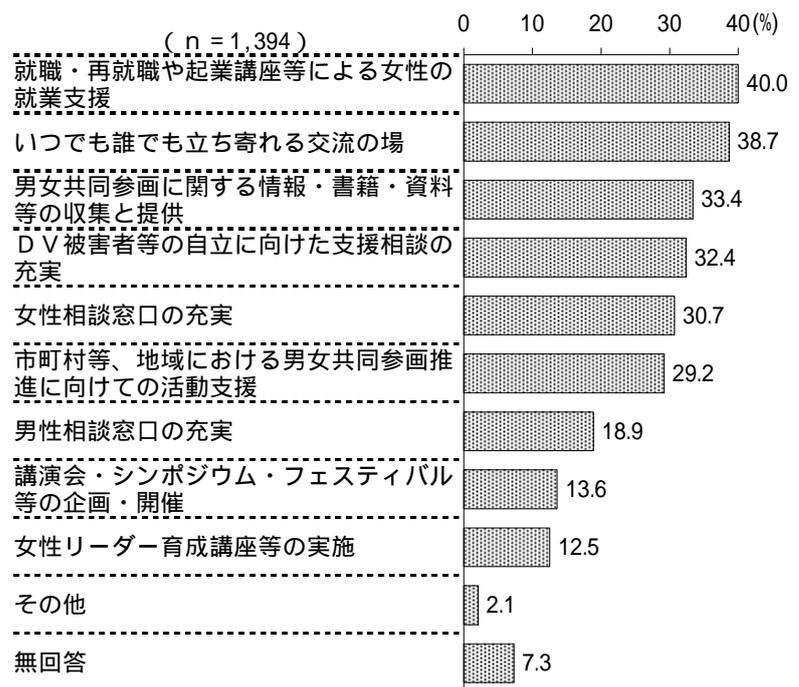
男女共同参画社会の実現のために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(68.1%)と「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(67.1%)が約7割で最も高く、以下、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」(63.8%)、「労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」(50.2%)が続く。



(2) 男女共同参画センターで充実させるべき事業

(複数回答 : いくつでも)

男女共同参画センターにおいてどのような事業を充実させるべきか聞いたところ、「就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援」(40.0%)が4割で最も高く、以下、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」(38.7%)、「男女共同参画に関する情報・書籍・資料等の収集と提供」(33.4%)、「DV被害者等の自立に向けた支援相談の充実」(32.4%)が続く。



《「男女共同参画社会の実現」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、131人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「男女共同参画社会」に関連して、「男女平等」について、何をもって男女平等とするのか、「公」「私」双方において平等を目指すのか、「私」において、明らかに平等でない（色々な面で、優劣関係なく）今、「公」だけにおいて、平等を目指すことが出来るのか、など教育の段階で、意見を交わせるべきだと思う。（男性、18～19歳、千葉地域）

女性というより、男女ともに働きやすい労働環境の推進をして欲しい。男性も長時間労働しないですめば、女性に同じ働き方を求められなくなると思う。（女性、30代、千葉地域）

意識改革の取り組みやサービス・施設の充実などがもっともっと必要だと考える一方、専業主婦（主夫も）を望む者もありそれらの人々に対する理解が薄くなるのではと気になる面もある。個々人の多様な生き方が認められる社会が実現されるよう行政も取り組んでもらいたい。（性別・年代無回答、千葉地域）

無理に女性を登用するのではなく、必要な人財を平等に活用してもらえるとよい。子育てに関してはこれも平等に育児を行い、親となった責任を持ってもらえればと思う。（女性、40代、東葛飾地域）

未だ女性に対する偏見が残っている。この偏見をクリアーにしていくことで女性の働き方の選択肢を増やすべきである。他方、男性の社会からの影響（女性の社会進出）が多少なりともある為、男性への支援も同じように要望したいです。（男性、40代、夷隅地域）

県議会議員や県庁・市役所に女性の役職者をもっと（半数）増やして女性の声を聞き女性の考えを取り入れてほしいと思います。（女性、60～64歳、君津地域）

男女平等が叫ばれているが、しかしこれだけは忘れてならない。男女同権であっても同質ではない。その人の状況に応じた細やかな配慮が求められる。（男性、40代、葛南地域）

男女共同参画センターがどのような事業を行っているか知りません。事業の内容や講演会などのイベント情報、相談窓口の存在などをwebなどで公開して欲しいです。（女性、40代、印旛地域）

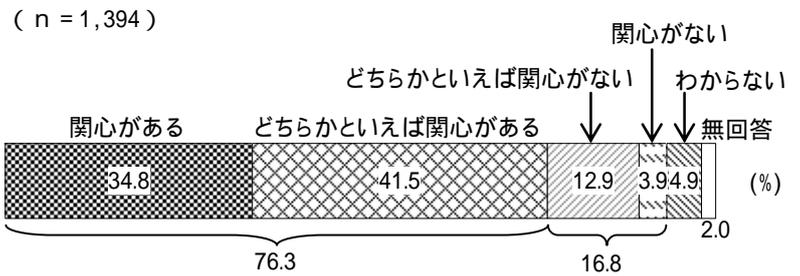
子供がいても、女性が社会復帰しやすい環境の構築が、とても大事だと思う。県政だけでは限界があると思うので、企業との協力体制が重要ではないか。（男性、30代、印旛地域）

7 食育について

(1) 食育への関心度

「食育」に関心があるか聞いたところ、「関心がある」(34.8%)と「どちらかといえば関心がある」(41.5%)を合わせた『関心がある(計)』(76.3%)が7割台半ばで高くなっている。

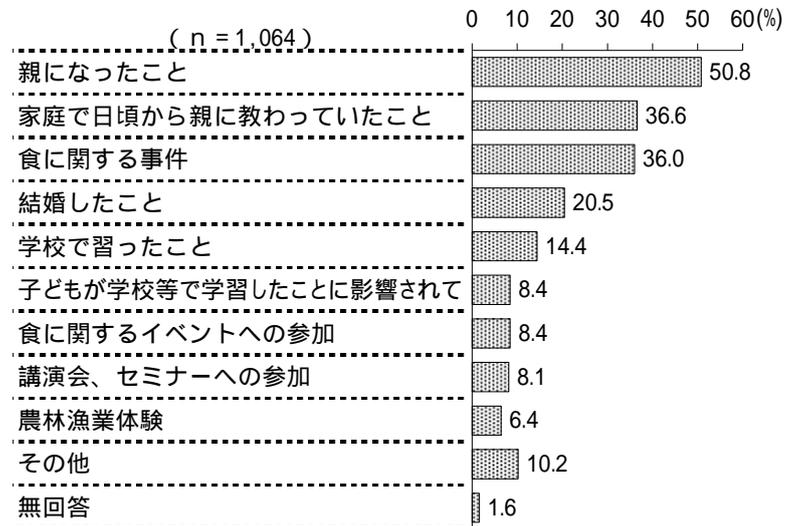
一方、「どちらかといえば関心がない」(12.9%)と「関心がない」(3.9%)を合わせた『関心がない(計)』(16.8%)は1割台半ばとなっている。



(2) 食育に関心を持ったきっかけ

(複数回答：いくつでも)

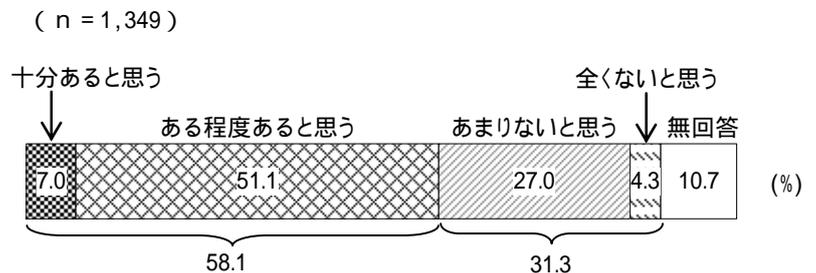
食育に関心があると答えた1,064人を対象に、食育に関心を持ったきっかけは何か聞いたところ、「親になったこと」(50.8%)が5割で最も高く、以下、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」(36.6%)、「食に関する事件」(36.0%)、「結婚したこと」(20.5%)、「学校で習ったこと」(14.4%)、「子どもが学校等で学習したことに影響されて」(8.4%)、「食に関するイベントへの参加」(8.4%)、「講演会、セミナーへの参加」(8.1%)、「農林漁業体験」(6.4%)、「その他」(10.2%)、「無回答」(1.6%)が続く。



(3) 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識があると思うか

(1)で食育に関心がない、あるいは「わからない」と答えた人、および(2)で食育に関心を持ったきっかけを答えた1,349人を対象に、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思うか聞いたところ、「十分あると思う」(7.0%)と「ある程度あると思う」(51.1%)を合わせた『あると思う(計)』(58.1%)が約6割で高くなっている。

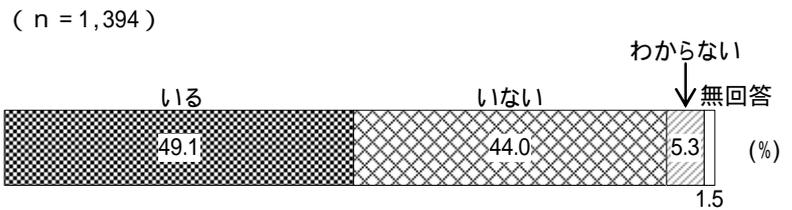
一方、「あまりないと思う」(27.0%)と「全くないと思う」(4.3%)を合わせた『ないと思う(計)』(31.3%)は3割を超えている。



(4) 農林漁業体験の参加状況

自身又は家族の中で、農林漁業に関する体験に参加したことがある人はいるか聞いたところ、「いる」(49.1%)が約5割となっている。

一方、「いない」(44.0%)は4割台半ばとなっている。

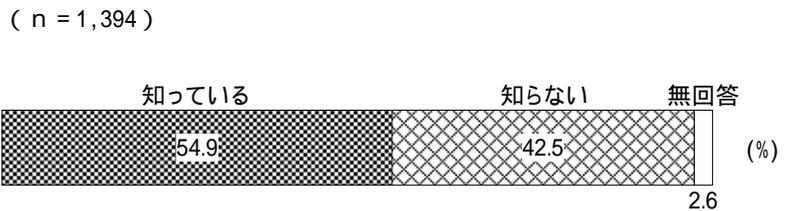


(5) 食に関わる文化の認知状況

(複数回答:いくつかでも)

地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を知っているか聞いたところ、「知っている」(54.9%)が5割台半ばとなっている。

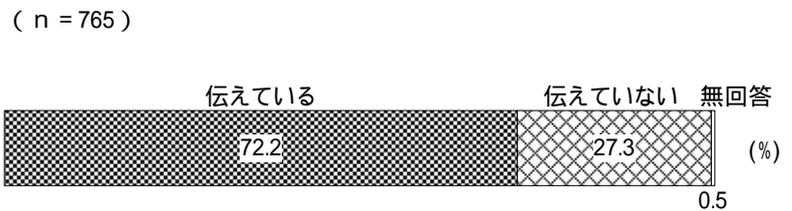
一方、「知らない」(42.5%)は4割を超えている。



(6) 食に関わる文化の伝承について

地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を知っていると答えた765人を対象に、伝統的な料理や作法を地域や次世代に対して伝えているか聞いたところ、「伝えている」(72.2%)が7割を超えて高くなっている。

一方、「伝えていない」(27.3%)は約3割となっている。



《「食育」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、154人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

地域の伝統的な料理、作法が薄れて来るのがさびしいです。若い人は洋風の料理が好きですが和食の良さを知ってもらいたい。
(女性、65歳以上、千葉地域)

土に親しむ経験は小さい子どもに是非体験させた方が良く考えています。必ずや将来何かしら役に立つと思います。
(男性、65歳以上、千葉地域)

家庭菜園をしていて、野菜の種を植えてから収穫までの経過観察や手間をかけて育てたものを収穫する喜び、楽しみを実感、自然の味を知り様々な知識を得られている。プランターでも栽培できる野菜などあるので幼い頃から一緒に実施すると食べ物の好き嫌いが減ると思う。
(女性、30代、東葛飾地域)

親子でコミュニケーションをとりながら食育について学べる場所があれば積極的に参加していた。これからもそういうイベント等があると良いと思う。
(女性、50代、葛南地域)

子どもが小学校で千葉の名産品の勉強をしたり、給食で千葉県や地域でとれたものを食べようと、身近に千葉のことを学べるのがすごくよいと思います。これからも続けてほしいです。子どもも楽しそうに千葉のことを教えてくれます。
(女性、30代、葛南地域)

食の安全は行政や企業の努力でかなり問題ないところまで社会が成熟してきたと思いますが、栄養のとり方や、個食など家族の中での食事のとり方が課題のように思います。家族のだんらんの場がなくなってきていることが地域の希薄化の基礎にあるように思います。
(男性、60～64歳、千葉地域)

小学校からもっと食育の取り組みをした方がよいと思う。子供の頃の食生活が、成人病へと続いていくような気がします。食べるということの大事さを、早いうちから知ってもらいたい。
(男性、50代、千葉地域)

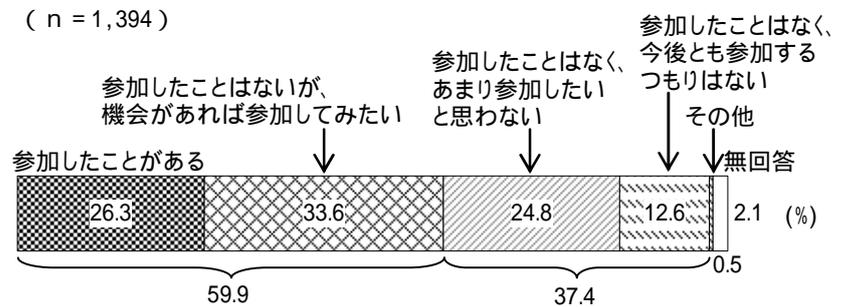
小学校のプリントで地産地消のメニューが載せられています。(給食でも地元野菜を使ったメニューの日)というのがあるようです。自分でも「郷土料理」の体験とかがあったら行ってみたい。
(女性、50代、印旛地域)

8 環境保全に関する取組について

(1) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」(26.3%)が2割台半ばとなっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(33.6%)を合わせた『参加意向あり(計)』(59.9%)が約6割で高くなっている。

一方、「参加したことはないが、あまり参加したいと思わない」(24.8%)と「参加したことはないが、今後とも参加するつもりはない」(12.6%)を合わせた『参加意向なし(計)』(37.4%)は約4割となっている。



《「環境保全に関する取組」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、106人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

高齢の叔父が1人で実家の田畑を管理していますが、もう何年も手つかずの畑があり荒れ放題です。市や県・国がそういった耕作放棄地を企業等にあっせんし、利用してもらう事は出来ないのでしょうか。毎年の税金が大変だと言っています。（女性、50代、東葛飾地域）

家庭ごみを自宅の庭で燃やす人をもっと厳しく取り締まってほしいです。近所で毎日のように燃やすので、本当に迷惑だし、健康被害も心配です。たばこよりたちが悪いです。

（女性、40代、海匝地域）

ごみの分別を行う意味を啓発した方が良いと思う。市の広報で、燃えるごみが多く灰の処分が大変であることを知り、分別に気を配るようになった。（男性、30代、葛南地域）

不法投棄を厳しく取り締まる条例を制定する。（男性、65歳以上、東葛飾地域）

手入れを放棄した山林や農地などが許可・無許可を問わず産廃の山になっています。無許可の場合は県警の管轄でしょうが、とても手が回らないと思います。許可がある場合でも、業者の倒産による放置などが多いようです。県の積極的な取り組みを望みます。

（男性、50代、印旛地域）

道路、公園その他公共の場所でのごみ、悪臭、騒音等の対策にも積極的に取り組んで欲しい。

（男性、65歳以上、長生地域）

過剰包装の自粛推進。

（男性、65歳以上、東葛飾地域）

山林が荒れ放題となっている。野生動物の宝庫となっていて、近隣住民への悪影響が甚大である。特に山林については国や県が積極的に買収等して整備して欲しい。特に共有林等は維持管理が困難な状況なので早期対策を進め、サル、シカ、キョン、イノシシの撲滅に努めて欲しい。自衛隊等の協力も必要。

（男性、65歳以上、安房地域）

海に囲まれた県として、海の環境保全に力を入れて欲しい。

（女性、40代、葛南地域）

もっともっと広報活動すべきと思います。

（男性、60～64歳、葛南地域）

【県への意見（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、228人から延べ288件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形(合計34項目)で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

県政全般に関する要望

若い世代が楽しく生活、学べる地域、高齢者が安心して、生活できる地域、県民が地域貢献、社会貢献、グローバルに貢献できる環境作りをお願いします。(女性、40代、東葛飾地域)

次世代を担う子どもの育成支援を充実する

幼稚園や小児科の場所が片寄っていて遠いです。県で場所の調整をしていただけると嬉しいです。(女性、30代、千葉地域)

道路を整備する

東葛飾地域の道路行政を改善してもらいたい。国道と駅入口への進入路が交差するところは立体化して欲しい。(男性、40代、葛南地域)

便利な交通網を整備する

流山市付近のバス路線をもっと充実してほしい。電車がストップしたら代替交通機関がなく、大変です。(男性、30代、東葛飾地域)

県政の情報発信について

チーバくんもかわいいし、もっともっと千葉の便利な点、都内の人にも自然の素晴らしい所が身近にあることを宣伝した方がよいと思います。(女性、40代、葛南地域)

高齢者の福祉を充実する

千葉県内の高齢者の生活実態を把握し、皆さんはこういうように暮らしている、今後県内の高齢者はこういうように暮らしていけるはずだというビジョンが掲げられるといいと思う。(男性、65歳以上、東葛飾地域)

医療サービス体制を整備する

大学附属病院等へ行くと混んでいて待ち時間が長く、診察までに半日、会計で半日と1日ばかりになってしまう。システム等の改善で時間短縮できるように働きかけて欲しい。(男性、60～64歳、千葉地域)

交通事故から県民を守る

自転車の交通ルール、マナーを小・中学生に教えておくことは大切と考える。車の免許を持っていれば道路交通法も理解できるが、子どもに基本的交通ルールを教えておくことは、自転車使用の多い千葉県民にはとても有用と考える。(女性、40代、葛南地域)

犯罪防止対策をすすめる

女性、子供が安心して暮らせるよう防犯を推進してほしい。(男性、65歳以上、東葛飾地域)

観光を振興する

観光公衆トイレの設備を現状よりスピードアップして、各地域に整備対応をお願いします。(男性、40代、香取地域)

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、142人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋して記載した。

普段、特に考えることのない事柄について、自分なりに真剣に考える良い機会になったし、県のことについて、今よりも関心を持ってみようと思った。
(男性、18～19歳、千葉地域)

県民の方々も、「ちょっと言いたい。聞いてもらいたい。」と思う方は多数いると思うのでアンケートは良い事だと思う。
(女性、65歳以上、葛南地域)

全体に設問が一般的すぎ、回答がどのように県の施策に反映するのか分からない内容だと感じました。アンケートをすることは賛成ですが、もっと具体的な施策について、県の取り組み、課題などと説明する資料をつけて行うべきだと考えます。
(女性、50代、東葛飾地域)

質問の内容がわかりにくい。
(男性、30代、東葛飾地域)

問が多いので、もう少し簡潔にさせていただくか、質問事項を絞ってほしいです。
(男性、20代、葛南地域)

他の方のご意見も知りたいです。ネットなどで調査の結果がみられましたら、これからのあり方も何かと方向性を感じることが出来ると思います。
(女性、50代、安房地域)

単なるアンケートでは貴重な時間を費やしたことが無駄になるので、後日アンケートに基づき改善した点をちば県民だよりに掲載して欲しい。
(男性、65歳以上、安房地域)

年末年始は忙しいので、他の時期にした方がいいと思う。
(女性、30代、印旛地域)

もっと回答までの期間がほしかった。
(男性、50代、葛南地域)

ネットでも回答できる環境があるといいと思いました。
(女性、40代、東葛飾地域)

返信の期限について封筒にも書いた方がいつまでに書こうという考えになり返信する率が上がると思います。
(男性、20代、君津地域)

チーバくんのステッカーでも同封すると回答率が上がると思う
(女性、30代、印旛地域)